

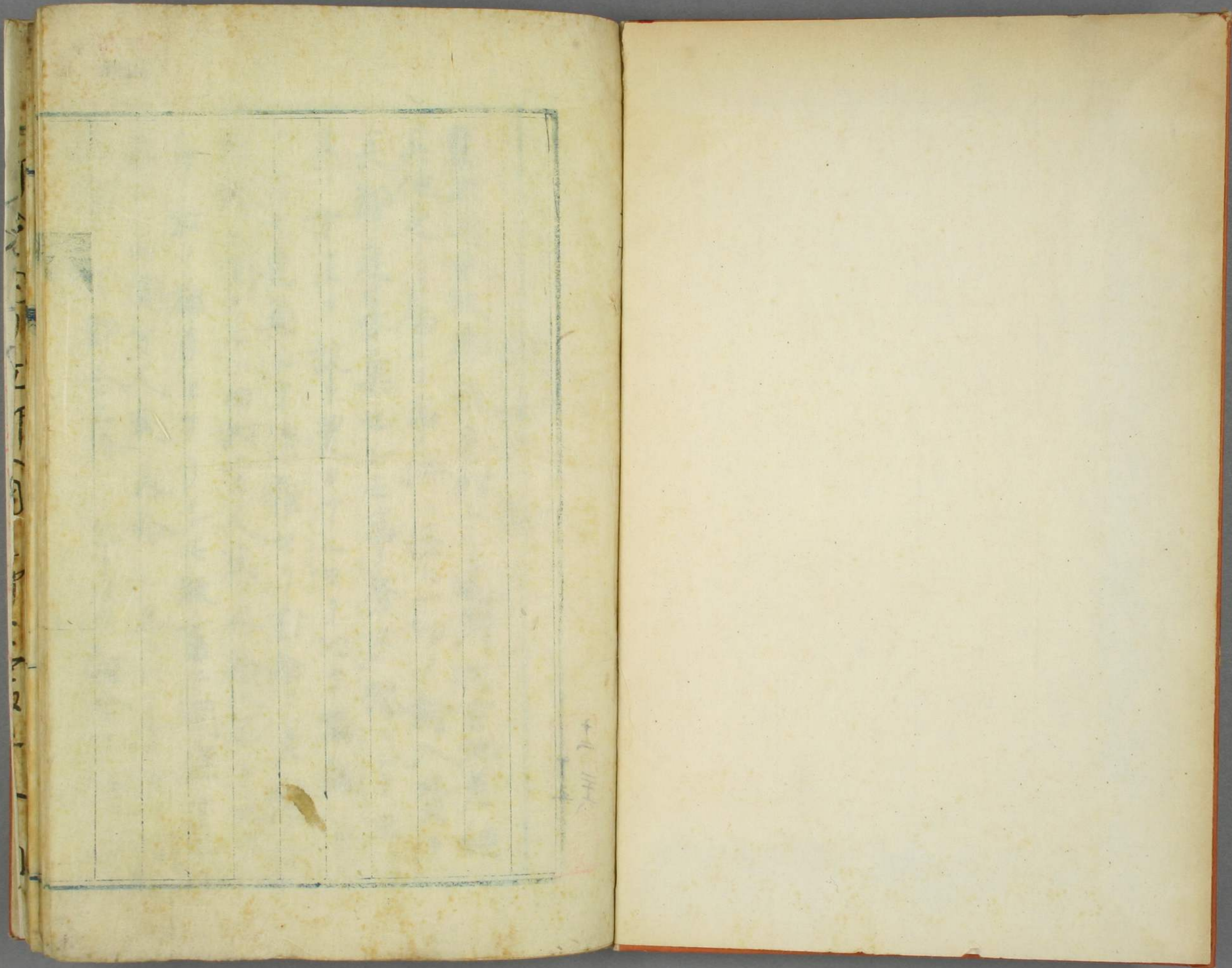


豊前國正救郡恒見村共有地
差連事件書類

和装本

710
6466





條約之証

豊前国企救郡恒見村字遠郷共有地差纏
 其他之^レ屬スル事件ニ係ル一切ノ諸入費ヲ
 其郡度募集セシモ事務多端ニシテ未タ
 其ノ方法ヲ設ケ置カサルヨリ以テ協議ヲ
 ナスモ免角シテ混雜セリ也此ノ差纏レ
 地鋪ニ関スルハ旧村方人民ノ持格ハ名ヲ以テ
 年款ノ相手トナリシモ牧畜ニ関係ナシ
 居ルハ旧浦方人民ノ持格 名ヲ以テ今ノ関
 係者ナシハ都合三格 名ヲ以テ組合トナシ

昭和十五年
 十二月二十六日
 業

居レリ依テ更ニ此ノ人員ヲ會合シ協議ヲ
盡シ物カナサレリ一致シテ左ノ條件ヲ違背
セサル為メ連署シテ之レヲ條約ノ証トス

明治十五年六月十二日以後ノ方法

一恒見村字遠郷山ニ関スル一切ノ益損入出其他
何邊ノ了レテ不限分賦負擔スルハ其都度
各面ノ上ニ記載ナシタル歩通ニ加算シテ之レヲ
執約ス（但今ハ券集ナスアウハ其金ニテ歩通ノ金ニ降シ
其ノ割リ當リ付タル員ナキ人ノ歩通ニ算シテ之レヲ
券集スルガ
ゴトシ

但分配ナスモ總テ之レニ依リ



一募金ヲナスニ緩縮アレバ其入用ノ事柄ニ因リ
日取テ極メ誰カ以テ切符ヲ調工時ノ見計ナシテ
日限ヲ定メ其ノ切符ニ何月何日限リト記載シ
之レヲ配達ス可シ

一前條切符到來シタル上ハ其ノ期限ヲ超過
ス可カラズ若シ等困ニ於テハ離散ノ存心アル
者ト看做シ其日新ニ募金ナシ居分ハ悉皆
出シ捨リニシテ爾後ノ分配ナモ不受自カラ連
外ト成ル可シ依テ催促等ナスル了ナカレ
但後令連外トナルモ該山ニ係スル事件ニ付

調印ナスアアバ何事ヨウズ連中並
執行ス可シ

一他出留守中タル者ハ家内ノ者ヨリ之レサ細合
者ノ内工依表シ調金シテ券集ノ金額サ
欠クアナカレ

前條々ノ協議一決ナシタルニ依テ十五年六月十一日
以前ニナシ居ルア高フ協議シテ一決ナシタルア
尤ノ如シ

一共有地差種レ事件ニ付同シタル入費トシ十五年



六月十一日迄ニ出金ナシ居ル分ハ出金都度月別
或分ノ利足サ加工負擔金ト差引超過ナス者ハ
其差引取リノ金額ニ月別或分ノ利足サ加工
十五年三月限り元利之レサ返付スルノ証書サ
渡ス可シ

一前條負擔金ニ不足スル者ハ其ノ不足金サ更ニ
借用証書ニ認メ超過ノ者工相シ置クベシ尤モ
超過ノ者サ金定トシ并前サ渡ス者サ以テ毎渡
受人トス可シモ借入ナシタル分ハ其前サ渡シタル者サ以テ借入
但五円内外過不足有ル者ハ之レサ渡シ或ハ

之レサ兩テ身希ナハ汝ス可シ

一右兩條ノ執約確定シタル上論地ノ勝利ヲ
得既ニ山地ヲ分配ナサントスル決ハ褒賞ノ及ト
サリ去リ余ヲ折半シ半額ヲ以テ不道チク面割
ニ殘ル半額ノ山地ハ六月十二日以後執約ナス步
通ニ割當テ之レサ分死ス可シ

一六月十日前ノ割當金ナ負擔セズ當ノ整少ノ金銀モ
出シ居ラズ後今出金ナシ右ルモ世ナニシテ残ル金額
ヲ証書ナシ置クモ其返付ノ見込立ヲサレ者ハ之ヲ
其價ニナシ垂右債ノ心得ヲ以テ今日使用ハ當善支



家事ヲ欠ラ之レササス可シ之レサ支工サスニ於テハ
離教者ト肯做シ希條離教者ト肯做ス方法
隨フ

但前通ヲ持テセズ六月十二日以後ノ善金サセ
ナルハ勿論ノ一ニシテ山地ヲ分配スルハ半額
分配モ人希少クノ一ニシテ分通ニ係ル山地ハ
不相渡事ノ

希書之通を協議一致シタル上ハ毛頭相違
無之者也

明治十五年六月十二日

主人

江口保次郎



主人

今井定平



主人

中島伟五



主人

末田定次郎

主人

江口茂多枝



主人

末田長八

主人

山本友造



主人

山本越次郎



主人

中西秀吉



主人

江口素久

壺人

道谷部吉

壺人

大快平作

壺人

島田方吉



壺人

羽島藤七

山本兴治郎

山本久羊造

宮崎角兵衛

田端治平

藤岡重平

藤井辰平

林和年丁

藤田弥六

原田久幸丁

清水佳八

今田延吉

秋田助七

廣江右兵衛

泉管三郎

樋口嘉助

梅田三吉

Vertical text on the left edge of the left page, likely a page number or chapter indicator.

Vertical columns of faint, illegible text on the left page, contained within a blue-lined border.

Vertical columns of faint, illegible text on the right page, contained within a blue-lined border.

江
湖
五
卷

豊前國企救郡恒見村字遠郷共
有地差纏ノ事件其他之ニ關係
事小倉區裁判所勸解ヲ始トシテ
一切事ヲ落着ノ事務此度更ニ協
議ヲ逐ク一致ノ上方法ヲ設ケ連署ノ
條約ヲ取結ス等尤ノ如シ

第一條

一益損其他何邊ノ事ニ限ラズ總テ歩
割ニ隨テ之レヲ負擔ス可シ
第二條

一歩割ヲ求ルニ方法ハ各各自身ノ姓名共
無減一帑ニ連名ニ其ノ各面ノ上ニ一人
ヲ司トシテ以下集次々ニ歩迄或ハ無歩ノ
見込有ルモ之レヲ各面ノ上ニ記ニ封書ニシテ
之レヲ集メ收蓄ノ組合人員ノ投票相
揃ヒテ上之レヲ開封スベシ

但無歩ノ投票ヲ受タル者ハ入費ヲ負
擔ス可キ見込無之者トシテ勝利ノ上ハ
聯カノ及トヲ與フベシ志モ骨折ノ
虞貴ハ別格タルベシ

茅三條

一投票開封ノ上ハ志各毎ニ其ノ歩數ヲ
集メ平均ニ求メタル歩數ヲ以テ其ノ
持歩ト決ス

茅四條

一益損其他何事ニ因ラズ持歩ニ隨テ之
レヲ負擔ス可シ

茅五條

一今ヨリニテ此後タリ凡此持歩ニ隨ヒ得ザル
者ハ是迄ノ歩金且骨折ノ虞貴等

都ラ格リニシテ後ノ益損ヲ負擔スルナカシ
但此ノ場合ニ於ケルモ事件ニ関スル調
印ハ事濟直之レヲ拒ムナカシ

茅六条

一組合融通ノ為メ向他ヲ論ゼス借入ヲ
ナミタル金返濟方ノ儀ハ歩通ニ扱ル者ト
爲モ事件ノ景況ヲ見テ連外ナル者ルキハ
残ル連中ノ迷惑タラニモ難計ニ付本日
ノ決心ヲ以テ必ス之レヲ歩通リニ扱ケテ負
擔ヲ可ニ依テ後日其ノ自儘ヲナスノ

不能タメニ別段訴求ニ扱ル約定書ヲ
調ニ置クモノトス

茅七条

一事件ニ関シ組合者ノ内骨折ノ多クヲ
以テ褒賞セシムル事濟直ニ投票ヲ以テ
多クヲ設ケ亦投票ヲ以テ論地ノ内及
トヲ與フル事將タ米金ヲ與フルカヲ決ス
可シ

右ノ通組合者協議一致ノ上決定セシ
上ハ毛頭異論無之若相北則ニ於テハ如

何様ニ成リ行モ決テ異議申間敷依テ
銘々兼服ニテ後証トナサニタメ實印ヲ
捺ニ置リ了如件

明治十五年六月

江口保次郎

宮崎角次郎

田端弥平

今井定平

寫田戈吉

林和平

羽寫藤七

江口茂兵衛

江口松藏

道谷勘吉

米田定次郎

江淵國藏

山本半次郎

今井辰平

山本兵次郎

山本支藏

山本惣次郎

藤井辰平

藤岡亀太郎

大沢平作

泉善之丞

藤田孫六

中嶋虎吉

守西八十一郎

山本兵六信

濱邊和助

今田延吉

廣江

清水奎吉郎

清水嘉助

村田助七

渡辺三吉

米田由藏

今田武敏
藏前

証

豊前國企救郡恒見村字遠郷共
有地差纏ノ事件ニ關スル諸ノ入費負擔
金ノ内償却殘リノ分銘々名面ノ上ニ
記載ノ金負其人ノ負擔有之矣
若償却方相滞リ矣節ノ此証ヲ以テ
償却相濟矣人名ヨリ何分ニ御取
分相成矣様御取計相成度其節
決テ矣議申間敷也未夕事件ノ
央ニシテ其金額決定セサレハ事落着

ノ上御書入相成敷又ハ央タリ凡便宜
ニ御書入相成度依テ金額記載ナキ
者ハ負擔金償却相成クル者ニ付其
償却相濟矣者ヨリ取分方ノ義御取
計被下度依テ惣負連署ナニ置
コト如件

明治十五年六月

江口保次郎

宮寄角次郎

田端弥平

今井定平

宮田才吉

林和年

羽嶋藤七

江口茂兵衛

江口松藏

道谷勘吉

米田定次郎

江岡国藏

山本半次郎

山本兵次郎

山本支藏

山本惣次郎

藤井辰平

藤田龜太郎

大澤平作

泉善之丞

藤田孫六

中島虎吉

中西八十一郎

濱邊和助

今田延吉

廣江

清水 李左部

清水 嘉加助

救田 助七

渡田 三吉

米田 由藏

山分死スル迄ニ地券ノ書根不取録片ハ此確証
照準ニ其本人日割者ノ人ヨリ現書ヲ取リ七世ニ決ス

組合ノ存リ取ル分 証

恒見村字遠郷山ノ内

一石灰石坑壹ヶ所

但東西至何間南北至何間深サ何間ノ内ニ
合蓄スル石灰石掘取スル分

右者拙者儀石灰焼キ惣業スルニ付拙者

所有ノ竈ニ於テ燒立ル処ノ石掘取スル分ノ

代金トシテ本年何月何日ヨリ明治十九年

何月何日迄滿一ヶ年中ノ石代金何因テ何年

何月何日ニ可相渡シ滞候歟或ハ地主ノ

何月何日ニ可相渡シ滞候歟或ハ地主ノ

者合三區、地法ノ月ノ等、石取止ノ十日、
内地鋪其傳可及却返却若等閑其、
掘取ニタル石共御勝手次所御取計被下度
依テ一證如件

明治十四年何月何日

豐前國倉敷郡恒見村

何ノ 某印
何ノ 某印

地主十八名或ハ十七名ノ引受人

何ノ 某殿

山ノ分取スル迄ニ地券ノ書換不取申ハ付確証ニ
照身ニ其本人ハ割出ノ合リ現書アリ申セ申決ス

明治十四年十二月自六日

上等言渡ヨリ百七十一日
上告日ヨリ七十三日

議事及投票目錄

一 投票箇条ノ内ニ投票ニ不及ニ付除クノ箇条
有無ナク 無キニ決ス

一 投票當日丈ケノ主人ヲ三名ノ撰シ投票スル
其一々ヲ各名工向ニ投票人ヨリ向フ事件
アウバ其事認キ申解ス依テ言語ニ混
雜スルナカレ其ニ員ノ人名ハ誰々ニスル哉
但ニ名モ都テノ事ニ投票ス但都テノ投票人自
身ノ事モ投票ス

明治十四年十二月

者合三任ノ坊法ノ月ノ管ハ石原止ノ十日
夕ニ也浦其可及中返却若等用其ノ

決ス 今井定平 江口保次郎 宮崎南次郎

一 小池氏工ノ謝礼ヲ切ルル如何スル哉

十四年四月ヨリ十五年四月迄ノ金三十四宛都合五ヶ月ニテ
合金百五十四両送ルル答ニ小池康平ト示該相祠如何ニ決ス

一 村上胖工ノ礼ハ如何スル哉

胖工ノ字工利ハ小池康平ト唐川之ト有リ其付康平
ヨリニ給言汁交會ノ康平ヨリ示該有之其付其言ニ決ス

一 足立工ノ礼ハ如何スル哉

金三十四両ニ決ス

一 平野氏文方工度々ニ其裁セ話ニ相成其付

礼ヲスル哉亦ハ其停ニ十二置哉

スルニ決ス 金五拾両

一 中島久八丈婦足立工致度通ヒタルニ付

ルヲ云哉云ワザル哉

スルニ決ス 金三十四

一 島田尋三郎方工集會都度ノ定宿ヲ依頼

シタル礼ヲ云哉云ワザル哉

云フニ決ス 金貳拾両

一 何邊ノ了ニヨラス心配シタル人々工礼ヲ云哉

云ワザル哉

云フニ決ス

一 謝礼褒賞ノ段級ヲ取ルル儀令ハ一人ニニヶ条

178-19 19-10-14

者合二語ノ抄法ノ月ノ管ハ石原止ノ十日
夕ニ也浦其可及印及印若等閑其ノ

決ス 今井定平 江口保次郎 宮崎南次郎

一 小池氏工ノ謝礼ヲ切ルルハ如何スル哉

十四年四月ヨリ十五年四月迄ノ月ニ金三十四宛都合五ヶ月ニテ
合金百五十四両送ルル名ニ小池康平ト示該相祠ニ如何ニ決ス

一 村上胖工ノ礼ハ如何スル哉

胖工ノ字工利ハ小池康平ト唐川之ノ有リ候付康平
ヨリニ給テ汗度會ノ康平ヨリ示該有之候付其意ニ決ス

一 足立工ノ礼ハ如何スル哉

金十官同五十両ニ決ス

一 平野氏文方工度々ニ裁裁セ話ニ相成候付

礼ヲスル哉亦ハ其候ニ十二置置哉

スルニ決ス金五拾両

三有り
一有り

一 中島久八丈婦足立工役度通ヒタルニ付
礼ヲ云哉云ワザル哉

スルニ決ス金三両

一 島田尋三郎方工集會都度ノ定宿ヲ依頼

シタル礼ヲ云哉云ワザル哉

云フニ決ス金貳拾両

一 何邊ノ了ニヨラス心配シタル人々工礼ヲ云哉

云ワザル哉

云フニ決ス

一 謝礼褒賞ノ段級ヲ取ルルハ彼令ハ一人ニニヶ条

17 Dec 1914

者合三伝、坊地ノ月ノ等、石原止ノ十日、
夕ニ也浦其可及印返却、若等用、其ノ

決ス 今井定平 江口保次郎 宮崎南次郎

一 小池氏工ノ謝礼ヲ切ルル如何スル哉

十四年旧十月ヨリ十五年旧二月迄一ヶ月ニ金三十四宛、都合五ヶ月ニ
合金百五十四、送ルル者ニ小池屋平ト示該相祠ニ如何スル哉

一 村上朋工ノ礼ハ如何スル哉

朋工ノ禮工利ハ小池屋平ト差川之ト有リ、其禮ノ意ニ
ヨリニ給テ、其禮ノ意ニ、其禮ノ意ニ、其禮ノ意ニ

一 足立工ノ礼ハ如何スル哉

金十官同五十、其禮ノ意ニ

一 平野氏文方工度々、其禮セ話ニ相成、其禮

礼ヲスル哉、亦ハ其禮ニ十二置哉

スルニ決ス、金五拾圓

寺ノ有リ

一 中島久八丈婦、足立工、殺度、通ヒタルニ付、
礼ヲ云哉云ワザル哉

スルニ決ス、金三圓

一 島田尋三郎方、集會都度ノ定宿ヲ依頼

シタル礼ヲ云哉云ワザル哉

云フニ決ス、金貳拾圓

一 何邊ノ了ニヨラス心配シタル人々工礼ヲ云哉

云ワザル哉

云フニ決ス

一 謝礼褒賞ノ段級ヲ取ルハ、彼令ハ一人ニ二ヶ条

者合三匠ノ持法ノ月ノ毎ハ石取止ノ十日
也申其可及印及印若等用灰ノ

アリ也ケテ未アリ亦属ルニケテ未四ケ条アルナレバ

直之直

Handwritten notes in various directions, including vertical columns of text and some circular symbols.

合印ノ先
アリ

ナ集ノ
夜間
礼ナ
ナメ夫レヨリ
ナリモ之ニ
定付ル字
其一六

一組内ノ者工謝礼ナスルキハ山ナレバ其惣
及トナ何礼ト極ル字金ナレバ其惣金
高ナ何礼トスル字

但平野小池村上中島嶋田足立ハ外ナリ

山ニ決ス 山ナニ十四人ニ割下キ外ナニ十七人ニ割差
アリ又合ナ謝礼ノ及トト決ス

一出倉其他諸方楳合ニ合等ニ付流虫ナニタル
人ノ差別ナ付ル哉同ニ侍ニナシ置哉

本炭名リ 差別ナ付ルニ決ス
○投票ノ一人ナ正ノ六トス

合印ノ先
先ニアリ

Handwritten text on the left margin of the left page.

者合三行、其法入月ノ等、石原止ノ十日

一手元ヨリ出金高ニ差別ヲ付ケ礼ヲ云哉号
少ニ不構同一俵ニ付置哉

礼ヲ云一ハ取消スニ決ス

合印
前後

○印^五四口合ニテ褒崇ノ正下ノ在ノ通ニ決ス

廿三人 今井定平 廿二人 吉崎角次郎
十九人 田沼任平 十六人 江口保次郎
十人 島田文吉 九人 中島邦吉

或八 江口和菰 或八 江口茂吉

或三 孫治友七 十三人 大伴平次

四人 道谷勘吉 五人 山本兵次郎

四一 兼田貞次 合百武十三人

一借入金口入高ニ差別ヲ付テ礼ヲ云哉多クニ
不構同一俵ニ付置哉

礼ヲ云一ハ取消スニ決ス

Handwritten marginal note on the left edge of the page.

者合ニ後ノ其法ノ月ノ等ハ石原止ノ十日

一金策ニ心死シタル人ニ差別ヲ付ル哉又ハ
同一体ニナシ置哉

差別ヲツケズ礼モ云ワサルニ決ス

一入費セヒ拂ニ付心配ノ差別ヲ付ル哉同一体ニ
ナシ置哉

差別ヲツケズ礼モ云ワサルニ決ス

一本事件ニ付實ニ心痛心配等ヲ致シタルヲ
以テ差別ヲ付ル哉同一体ニナシ置哉

合印○ 差別ヲ付ルニ決ス 正一人ニ卜トス

一山分ケ其他事件ニ付万般彼是ニ付心配
シタル差別ヲ付ル哉同一体ニナシ置哉

合印○ 差別ヲ付ルニ決ス 正二卜

Handwritten marginal note on the left side of the page.

者合ニ後ノ地法ノ旨ハ石原止ノ十日

三十一日
不共ニ決ス

証ヲ渡シタルニ身差別ヲ付ル哉三人一俸ニ付
置哉 但旧村ノ人ノ律ニルカ旧浦ノ人ノ律ニルカ起ニ俸ニルヤ

差別ヲ付ル哉 役助万荒ノ支各ハ和訴被答ニ當テ

三人一俸惣人員トハ差別ヲ付ル

一山ヲ分クルカ負擔金ニ旧村ノ人ト旧浦ノ人ト
差別ヲ付ル哉ツケザル哉

旧村浦ハ同一俸ニ決ス

一山ヲ分クルカ負擔金ニ旧村ノ人ト旧浦ノ人ト

山ヲ分クルカ負擔金ニ旧村ノ人ト旧浦ノ人ト

一附礼ヲスルハ山ヲ以テスルノ旨 現金ヲ以テスル哉

山ヲ以テスルト金ヲ以テスルハ其ノ旨ハ右ニ依テ

亦ケ案ハ取消スニ決ス



一附礼ハ山ヲ以テナスト決シナバ褒賞スル惣
及トナ官村ノ方牧場坑ニ除ケ置褒賞
サレタル人ノ地盤割リノ旨ノ居ル所ノ山
鋪ニ憐ノ地法ヲ繰リ込項次如斯ニテ
除ケ置タル及トナフサグノ旨ハ褒賞
サレタル人ハ二ヶ所ニ及トナ持ツ旨

二ヶ所 或ハ三ヶ所ニ持ツニ決ス

一附礼ヲ現金ニテスルト決シナバ良時出金
スル旨ハ利益ニテ証書諾ニスル哉

附礼ノ旨ハ利益ニテ証書諾ニスル哉

者合三任ノ地法ノ月ノ等ハ不取止ノ十日

附礼ハ山ニテスルニ決ス故ニ此ケ全ニ取消ス

一仕諾勘定付仕立方ニ異後ノ有旨ヲ決シ
今日迄ノ処ハ異後毎之ニ付銘々負據スベキ
旨ヲ記シ連印ナシ置字亦ハ其旨ニシテ
置置共

連印ナシ置置ニ決ス

一今日以後ノ入費ハ勘定帳ノ先キニ書終ク
ハキヤ亦ハ一旦奉拂ノ仕諾ヲ付ケ連印ニタ
上之帳面ニ紙ヲ替テ更ニ記載ナシ書キ

ナサスヤ亦ハ譲ル者アウハ譲リ受ル者ハ残ル
組合中ニ引受ル共

前△印ニ決液ナシ居ルハ亦ケ条ハ取消ス

一事件費償却ノ方法ハ如何ニテ設フル共

牧場ノ借受ル及トハ年々加調金ヲ何程

返スノ証ヲ分死高リノ事人ト牧場掛リト
取換書字亦ハ其後ニ不及共

一牧場ノ當分獲ハメ書モ亦ハ其面是近ノ通牧
場ニナシ書モ一應惣担ヲ結ヒ亦ハ代移共

Handwritten marginal note on the left edge of the page.

Handwritten red notes at the bottom of the page.

置先

連印十二置に決ス

一今日以後ノ入費ハ勘定帳ノ先キニ書付ク
ハキヤ亦ハ一旦奉拂ノ仕諾ヲ付ケ連印ニ付ル
上ニ付帳面ニ紙ヲ替テ更ニ記載ナシキ

夫レ丈ケナシテ仕諾致スベキ哉

更ニ帳存ナシテ決ス

一万般ニ付疑念疑心散念等アラハ今日同フテ
可解スベシ後日生スル一ナカレ依テ疑念者
毎ナ同

一山ヲ分ケタル上ハ骨折ノ痕ヲ与エタル後チ

ニ付其後ニ骨折ノ者ハ銘々記シ置キ例年
十二月毎ニ牧牛ノ仕諾ヲナスモノニテ亦而集

會スルモノナレバ其序ニ之レヲ集メテ
任成ノ惠釈ヲナス事亦ハ其都度スル哉

一分賦スル山鋪讓渡ヲナスハ入費ナク
金何種ヲモス哉亦ハ入費丈ケニテ讓リ麦ケ
渡シナスル哉

一分賦スル山鋪讓リ麦ケ渡スル者ノ有毎ナ同

一分賦スル山鋪讓リ麦渡スル者アルハ相對ニテ

者合三任ノ地法入月ノ等ハ石取止ノ十日

致シ原水水各場若仕上ケノ上兵次印ハ引渡
規則通ニ施行ナリテ守立ハ而後ニテ門場又

向フ組人名再 **惣社** 上ケノ上門 後スニ沖クス

一電持工電場貸賃并其電丈ケニ焼立ル石

扱取ノ代金若合ニ何因ナキ年分ト極メテ月分

証書ナラ電主丈々ヨリ取去リむ皆其節ハ

石止ノ電場明ケ返返ス若電取除等閑

其ノ内勝手次々ニ之々旨ナキモ認メサセ為地主

ノ都合ニ依テハ電場取去ル石取リナ止メサセル

一ノ合社トノ條約書ニ有ル向フ組人名ヨリ確証ナ

漱

女ノ家

茶室



井ノ浦ヨリ小濱エミ道ヨリ下夕濱手工場所見立
三十四名ニ割従前石原焼ナ建篠ナシナル者工ハ
其場所ナ割者ルニ様ス

井ノ浦ヨリ小濱エミ道ヨリ下夕濱手工場所見立

者合三活ノ地法ノ月ノ等ハ石取止ノ十日

致シ原水水各場若仕上ケノ上兵次印ハ引渡
規則通ニ施行ナラズ亦ハ而停ニテハ後ス夫

向フ組人名再 **惣社** 上ケノ上ノ門 **後スニ決ス**

一電持ニ電場貸賃并其電丈ケニ焼立ル石
掘取ノ代金若合テ何因ナキ年分ト極メ月分
証書ヲ電主丈々ヨリ取去リモ汚汚其節ハ
石取止ノ電場明ケ返返ス若電取除等用
其ノ内勝手次々ニモ有ナキ認メサセ為地主
ノ都合ニ依テハ電場取去ル石取リナ止メサセル
一ノ合社トノ簿約書ニ有ル向フ組人名ヨリ確証ナ

一ノ合社トノ簿約書ニ有ル向フ組人名ヨリ確証ナ

取置一如何モ宛名ハ地主十八名ノ引受人
某ト認メ其人名ハ其所ニ割当タル者ニ
シテ其書面ハ其者ニ付置加調金ハ年々
其者ニ電主ヨリ受取ル候ハ如何

但更ニ同坑許可ノ上取計フベシ

後ノ通決スモ但内ノ者タリは程程執リマラス

一電々ニ焼処ノ石灰石丈々石取場ヲ見立更ニ同坑
少許許可ノ上石ノ取方ヲ致シ其テハ如何哉

但十八名ヨリ申候スベシ

**石取場ヲ見立出候許可ノ上取方スルニ
決ス**

一ノ合社トノ簿約書ニ有ル向フ組人名ヨリ確証ナ

一組合人員ノ内ニ於テ石灰焼ヲ営業スル者ノ内ニモ遠郷地口電
小屋ヲ建築ナシ居ル人名ヨリ他ノ組合中工ノ頼談ニ

一石坑ハ他人ノ地鋪ニナルトモ可ナリ依テ確証ハ向フ組ニ思案シテ
後ニ決ス

一電場ノ小屋床トモ居其地鋪之東ハ終ノ山地ヲ取入

一 竈々二焼処ノ石灰石其々石取場ヲ見立更ノ用坑
少務許可ノ上石ノ取方ヲ致シ其テハ如何哉

但十八名ヨリ申候スベシ

石取場ヲ見立之出候許可ノ上取方スルニ
決ス

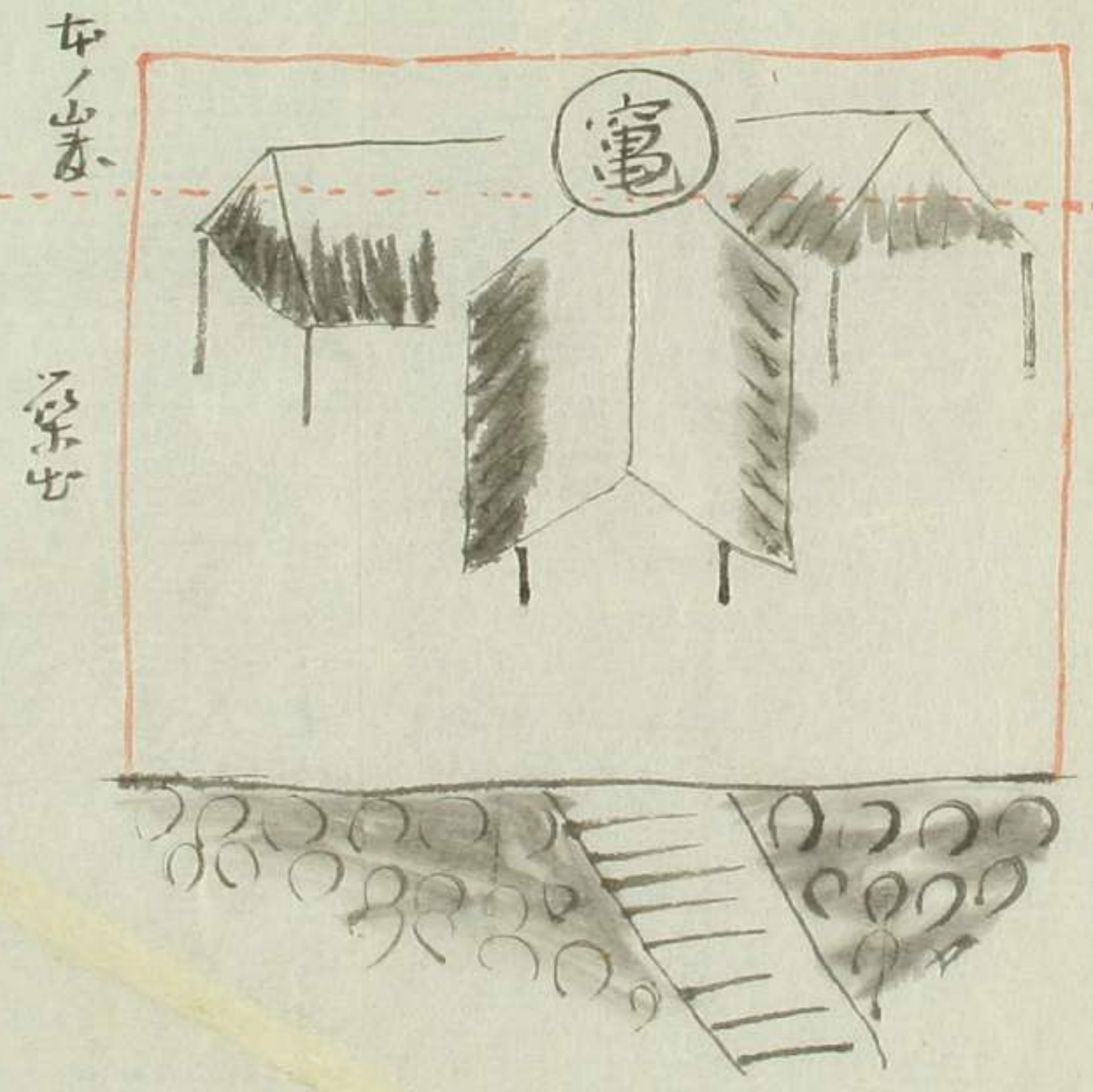
一 組合人員ノ内ニ於テ石灰焼ヲ營業スル者ノ内ニモ遠郷地ニ竈
小屋ヲ建築ナシ居ル人名ヨリ他ノ組合中工ノ頼談ニ

一 石坑ハ他人ノ地鋪ニナルトモ可ナリ依テ確証ハ向フ但ニ照準ニテ
復ニ候ベシ

一 竈場系小屋床トモ居候地鋪之末ハ終ノ山地ヲ取入
多分ハ海ヲ埋ノ築出サナシ恒々墾キ尙分資季ノ掛ノ其
モノ申居山互ト再ニ取入レ手ノ付カザル山浦口様
組合中ト居申テハ資金モ捨リ加之竈人ニ於テ難儀
スル場合ニ至ルコトモ有ラリト云々場合モ其故上竈場
少産床丈テハ配給スル山鋪ノ別格ニ組合ノ懇親ナリテ
尙分資價ニシテ組合中ヨリ更ニ竈人銘々ニ掛合ニテ
及ヒオトノリ申返答如何スルヤ

伍合ハ

石坑



井ノ浦ヨリ小濱エ道ヨリ下リ濱手ニ塙所ヲ見立
三十四名ニ割從前石灰焼ヲ建築ナシ居ル者工ハ
其塙所ヲ割ケルニ候ス

方考



方考

一 山分ケタル以後垣石等賣却方ノ後ハ合社ノ
 修約ニ不遠花ニ亦内淨巾合ノ証トモ遠ク
 ナル花ニシテ終ク主人持ノ地券ニ成ル迄ハ
 十八名ノ各々借リテ割當リタル地全主人ニ
 賣却及計フヤ亦ハ惣員ニテ賣却及計フ哉

一 山分ケタル以後垣石等賣却方ノ後ハ合社ノ
 修約ニ不遠花ニ亦内淨巾合ノ証トモ遠ク
 ナル花ニシテ終ク主人持ノ地券ニ成ル迄ハ
 十八名ノ各々借リテ割當リタル地全主人ニ
 賣却及計フヤ亦ハ惣員ニテ賣却及計フ哉

一 山分ケタル以後垣石等賣却方ノ後ハ合社ノ
 修約ニ不遠花ニ亦内淨巾合ノ証トモ遠ク
 ナル花ニシテ終ク主人持ノ地券ニ成ル迄ハ
 十八名ノ各々借リテ割當リタル地全主人ニ
 賣却及計フヤ亦ハ惣員ニテ賣却及計フ哉

山分ケタル以後垣石等賣却方ノ後ハ合社ノ

者合三区、地法ノ月ノ等、石原止ノ十日迄

三子費却スルニ決ス

合社トノ律約尚外停中合トモ不遠此ニテ新田ノ地主一名

一十三年十四年与期ノ電運上汚分才変取子

亦ハ捨了、スル哉 但合内ノ電主三取ル 組合ヨリ請求ニ

石立

一而他ニ投票ナスル、ハナキヤスル、アウハマル

日近ニ越考ニテ投票ニ掛クベシ其日ナ

過クハ投票相ナラズニ才投票スル、ノ越考

有ニ才同

一投票ニテ極リ其、ハ後日決テ若情中ニル、

石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出

一餘程取、石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出

一石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出

○石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出

一石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出

一石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出

一石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出

○石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出

石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出、石原止ノ決出

者合三伝、坊地ノ旨ハ石原止ノ十日日

三手賣却スルニ決ス

一 田舎十廿年々日ノ一、
一 田舎十廿年々日ノ一、
一 田舎十廿年々日ノ一、

合合
一 田舎十廿年々日ノ一、

一 田舎十廿年々日ノ一、

一 田舎十廿年々日ノ一、

ナラズ依テ申之ル、アウハ今日良席ニ
中ニツベシ物後シテ賣、一限リ投票ナ
仕直ス、亦ハ油藏ニ決スベシ

一 牧場ヲ當分獲ハメ置度ニ付、追々牧牛殖リ
場獲ト、あ、ハ隣ル地妻ヲ借リ、変ルニ付
隣ル地妻工、過リタル人ハ、分、海、項、次、如、新、

合印、
百、
百、

一 田舎十廿年々日ノ一、

一 明治十五年分ヨリノ電博貸子貢同ノ電ヲ控リ知ノ生石
 掘取スル石坑ニアル石付金之合シテ一ヶ年分ノ金
 何同宛トスル哉 左ノ通ニ決ス

石炭高社ト取組借約書ニル人カ

拾円 石佛武助 拾円 石佛助太郎
 拾円 藤井利右衛門 〇 田村彦平

〇 林 初平 拾五円 林 孫右衛門

〇 桑田喜平 〇 桑田貞次平

〇 山下久平 拾五円 祝 新吉

拾五円 桑田金之吉 拾五円 西村三平

拾五円 松村甚六 〇 羽島有七

〇 宮崎有平 〇 中島彦吉

〇 江口甚吉 〇 今田延吉

〇 渡辺徳茂 〇 桑田彦吉

八円 大伴彦平 八円 松本彦平

以上廿二名

〇 竹印ハ組林ノ者ニ有之殊ニ古ノ後舎ニテ電博ハ
 終ノ不有地ニ割入シテ決シテ有道ヨリ下タナク
 一應博取シテ石坑ノ形令ニ周リ坑ニ有ル知ル石炭
 取極ルニ決ス

ナラズ依テ申之ルアウハ今日良席ニ
 中ニツベシ物後シテ有リニ限リ投票ナ
 仕道ス字ハ由藏ニ決スベシ

明治十三十四西年分

時葉永形拾貳名ニ決ス

一六四 孫澤有七

一六四 松村甚六

一六四 西村三次郎

一三四 米田金三郎

一六四 祝新吉

但十四年分

一六四 米田貞次郎

一四四 林 孫右衛門

一四四 石佛武助

一五拾銭 林 和子

一四四 石佛助次郎

但十四年分ニ限ル

一五四 友田強六

一五四 松若次郎

一貳四拾銭 濱邊和子

一貳四拾銭 林 和子

但十四年分

但十二年分

南無年分

一五四 園村教右衛門

一五四 鈴木三次

一四四 今田延吉

一 友井利九郎

但十二年分

合金

一貳四拾銭 山下米吉

一明治十五年分ヨリノ電博貸子員同ニ電ニテ控リ処ノ生石

握取スル石坑ニアル石付金^{石坑名移メ夫ケテスル代。}合ニテ一ヶ年分ナリ金

何同宛トスル哉 左ノノ通ニ決ス

石炭高社ト取組備約書ニル人名

拾四 石佛武助

拾四 石佛助次郎

拾四 藤井利右衛門

〇 田村年平

〇 林 和子

拾五回 林 孫右衛門

〇 米田年平

〇 米田貞次郎

者合... 拾遺... 月ノ... 等... 石... 止... 十日...

獲ハメタル見各サ以テ付ル哉

前合印ノ通り決シタルニ付竹筒各ヲ取消ス

一恩賞ヲ受ケレト思フ人アウバ自身ノ一
除ケ置人ノ一ヲ勤考フベシ与エント思フ
人アウバ人ノタメニ成功ヲ付タルト思フベシ
首ノ軍ニ登テ云ワバ武士ハ兼テ知ルナ
与エモカレシモノナレバ君ノ為ト忠ト思ヒ手
柄ナハケム君ハ兼テ知ルナ与エモカレタレ
ドモ先ツ夫レハ除ケモ其者ノ切ニ依テ勝利
ヲ付タル速慶賞セラル依テ己ガ一ハ人ノ

目入ニ任セ人ノ不知ハ自然ト天之レサ知ル免角
已レニ社トガノ字ノ付カヌヨウナサレバ只ハ
不足不腹勝チニラ公年サ不如依テ不知一ハ
何カノ一モ言フテ知ラ公年サ主トスベシ
不同シテ不知信一トサナス成ハ不之年サ生ス
亦不腹サモ抱キ後チ苦情ノ種トモナラレ
之レハ人ノ知ル処ニテ叙加ニ説法ナレドモ不糸
ナル故乍序方ニ申ス

右之通 投票ヲ以テ決シタレバ亦未事件ニ関シ

後事或ハ

者合：匠、坊、法、入、月、等、石、麻、止、十日、

渡スル、有ル^世議事、着手スル以前、通ノ事情ヲ憂心セス
三十四名一致戮力協儀ノ上、後ノ了、ヲ屬般
負擔スベシト兩言

遠郷山共有主牧畜概ノ共
三十四名

月、合、匠、坊、法、入、月、等、石、麻、止、十日、

銘々受持ノ及トヲ取極メタル事尤ノ如シ
惣及別三拾八町五反三畝廿四ト

内譯

官林及別拾壹町六反九畝廿二ト

荒地及別九反〇廿ト

牧場組合共有及別貳拾五町九反三畝拾三ト

但三十四名面割ニシテ壹名当リ平均七反畝〇八ト余

明治十四年三月廿九日

者合：臣、折、法、入、月、等、不、在、止、十、日、

Vertical columns of faint handwritten text within a blue-lined border on the right page.

Vertical handwritten text on the left margin of the left page.

Vertical columns of faint handwritten text within a blue-lined border on the left page.

者合：匠、坊、池、入、月、等、石、不、止、十、日、

匠、坊、池、入、月、等、石、不、止、十、日、

者合：匠、坊、法、入、月、等、石、不、止、十、日、

樓物、金、額、不、極、矣、了、矣、如、

金、額、不、極、矣、了、矣、如、

者合... 於... 入... 等... 石... 止... 十日...

Table with multiple vertical columns, likely a ledger or record book, with no text written inside.

地所分裂(賣賣)スルモノトシテ地券書換
相濟迄預ケ置証

豊前国企救郡恒見村 自七百六十五番 自千五十九番
至七百七十番 至千五十七番
都合九竿字遠郷十八名ニテ共有スル山拾七町九反
其畝卜ノ内

合番ノ内

一山何反何畝何拾何卜
右地所今般貴殿江預ケ置処相違無之
併地所差纏事件確定シタルヲ以テナス
モノト 虽七分列表賣渡等出願シテ地券書換

豊前国(豊前) 恒見村(恒見)

者合... 明治十四年... 十月...

下附相成迄ノ内再登ニ夕ルハ可為從前
通事 但地券書換濟ノ上此証可為消滅事

恒見村共有持主

明治十四年何月何日

十八名 連印
或十七名

恒見村

預リ人何ノ某殿

案書ノ通決ス

証

恒見村字遠郷山ノ内左記ノ及卜牧場設
置中貸地致シ置処相違無之然ル上ハ租
民費加調等ヲ合シテ壹反卜ニ付金何拾何
錢ノ割合ヲ以テ例年十二月廿五日毎ニ被相
渡度租民費金等上納方之儀ハ納期ノ都
度拙者共手元ヨリ上納可致事
明治十四年何月何日

恒見村内

共有持主ノ内

合印
有前

明治十四年何月何日

者合... 明治十四年... 石原止ノ十日

貸地何反何前何拾何卜 何ノ 其印

共有地ノ内預リ人

貸地何反何前何拾何卜 何ノ 其印

但分列表賣賣等ノ地券書換濟ノ上六人名ノ肩
書ヲ消滅ス可キ事

恒見村牧場掛リノ内

何ノ 其殿

何ノ 其殿

世稿業

前合印ノ通リ決シタルニ付世稿業ヲ取消ス

証

恒見村字土遠郷山ノ内左記ノ反卜牧場ノ設
置中借地致シ候処相違無之然ル上、租民
費加調等ヲ合シテ志反卜ニ付金何拾何銭、
割合ヲ以テ例年三月廿五日毎ニ可相渡ニ付
租民費金等上納方之儀、納期ノ都度貴
殿方ヨリ上納相成度事

明治十四年何月何日

恒見村牧場掛リノ内借地主

何ノ 其印

△ 有前合印

恒見村牧場掛リノ内借地主

者合... 明治十四年... 石原止ノ十日...

何ノ稟印

恒見村ノ内共有持主内

何ノ稟殿

借地何及何取何拾何卜

右日共有地ノ内預ル人

何ノ稟殿

借地何及何取何拾何卜

但分裂賣賣等ノ地券書換濟ノ上六宛名ノ
肩書ヲ消滅ス可キ事

前合印ノ通リ決シタルニ付其稿案ヲ有消ス

協議一決証

恒見村字遠郷山ハ従前牧場ニ候処牧畜
ノ都合ニ因リ當分ノ内境狭キ狭ハムルト至モ
追々牧牛殖リ場狭ト成ル共ハ境狭隣地江
廣ルモノニ付隣地ハ勿論順次如斯ニスルモ
其節誰以テ異儀申問敷依テ申合ノ一証
知件

明治十四年何月何日

山共有持主

十八名連印

合印証
前音

明治十四年何月何日

者合... 坑... 入... 等... 石... 止... 十日...

共有地再預人

十六名連印

但分裂賣賣等ノ地券書換濟ノ六人名ノ
肩書ヲ消滅ス可キ事

前合印ノ通り決シタルニ付稿案ヲ取消ス

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

案書ノ通ニ決

石灰石掘出願

自第七百六十五番至七百七十番
自第七百六十五番至七百七十番ノ内
字遠郷

民有山ノ内

豊前国企救郡恒見村

一開坑場何百何拾何坪

石灰石何万何千何百何拾何切

壹ヶ年掘出見込高

五ヶ年季

明治十四年何月ヨリ
同何年何月迄

右地所ニ於テ石灰石采坑仕度候向御届
被下度奉願共也

豊前国企救郡恒見村

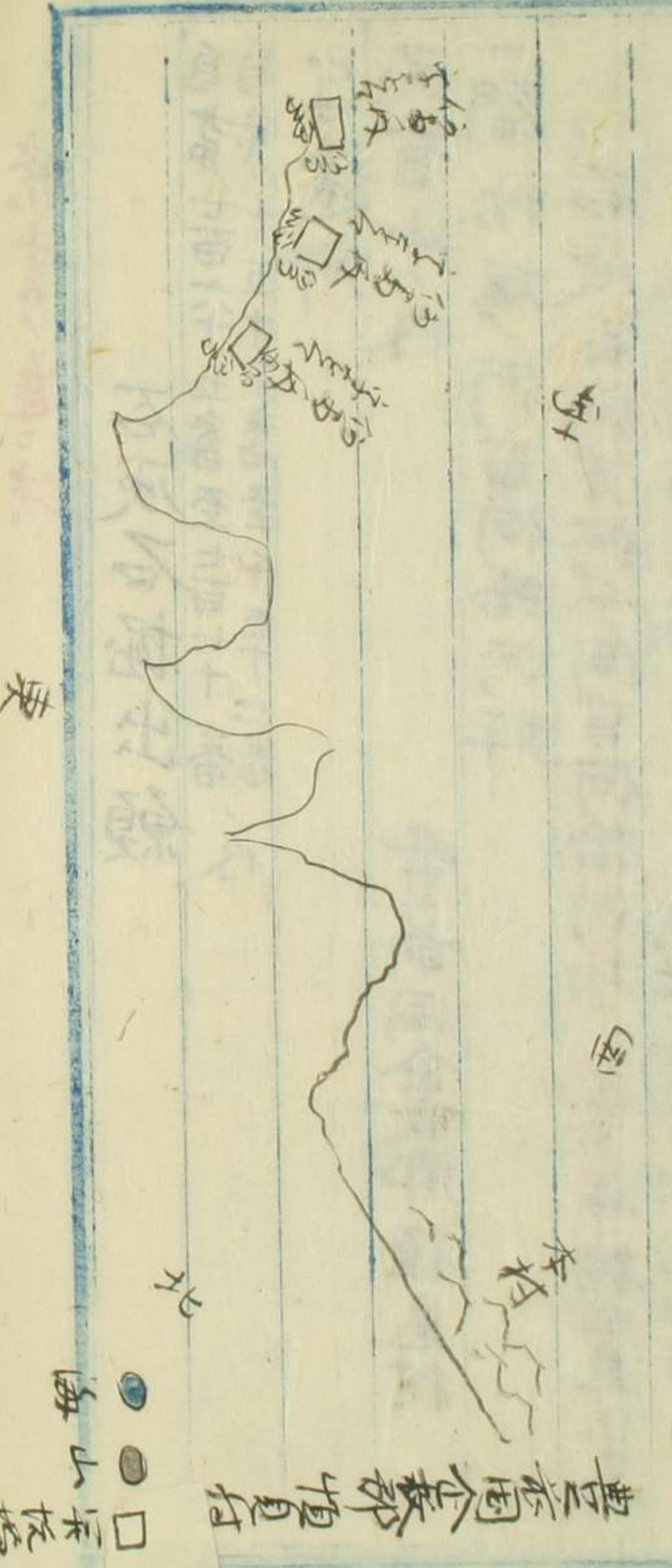
[Vertical text on the left margin]

者合... 坑... 石... 十日...

山共有持主

十八名連印

明治何年何月何日
福園縣全郡々長何ノ某殿



向ノ細ヨリ取分 証

恒見村字遠郷山ノ内
一石灰焼竈場壹ヶ所

但東西長何間南北長何間

右同

一石灰石坑壹ヶ所

但東西至何間南北至何間深サ何間ノ内ニ合
蓄スル石灰石掘取スル分

右者拙者儀石灰焼サ營業スルニ付前記ノ
竈場借地致シテ該竈ニ於テ燒立ル外ノ

明治何年何月何日

者合三匠、地法、入月、等、石、取、止、ノ、十日、

石掘取スル分ノ代金トシテ本年何月何日ヨリ
明治十五年何月何日迄満テ年中ノ借地料
并石代共合金何円ヲ何年何月何日ニ可相
渡テ滞候所或地主ノ都合ニ因リ竈場坑共
御入用ノ節、石取止メ建築ナシ居ル外ノ竈
十月間内ニ取除地鋪其修可及御返却若
等閑候ハ、燒竈并掘取シタル石共御勝手
次第ニ御取汁被下度依テ一證如件

明治十五年何月何日

豊前国企救郡恒見村

地主十八名引受人

何ノ某殿

証人

何ノ某

印

何ノ某 印

前書之通議事或ハ投票シテ決シタル処相違
無之候也

今井定一平

江口保次郎

宮崎南次郎

田端弥平

島田又吉

林和一平

羽島藤七

江口茂兵衛

江口松藏

道谷勘吉

永田貞次郎

江洲吉五郎

山本惣次郎

山本兵次郎

山本羊次郎

山本友藏

明治十五年何月何日

者合三匠ノ坊地ノ月ノ等ノ石扉止ノ十日

藤井辰平

藤岡亀次郎

大澤平作

泉善之丞

今田延吉

中島虎吉

藤田浪五郎

中西彦助

廣江忠五郎

清水本太郎

清水嘉助

枚田助七

永田由藏

渡邊三吉

田中儀助

田端万藏

永田多平

濱邊和助

以上三十四名

合印ノ記
先キ有リ

場所ヲ見立者分ノ内中橋ヲ結ヒ立牧蓄田場ヲ使
ハメ其境場内ノ及トナサレ四名ニ分賦シ地鋪ハ
銘々ノ所有地トナス 但シ牧蓄殖リ場狭トナリ
新度口ルル時直ニ地ニ其時ノ協役
ニ任ス 銘々割者ノ及トナサレ牧蓄場ニ持出ス 但シ負担
民費合
等ハ銘々ヨリ 狭ハメタル牧蓄場ニ有ルルノ草木亦石
上ノ銘々
等ハ銘々自由ニスルナラズ金貨ニ替ユルルハ之レヲ
協役ニテ牧場ノ入費ニ使却スむ残余金有ルルハ之レヲ
面割ニシテ分死スルニ決ス

藤田浪五郎

一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル

一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル

一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル

一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル

一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル

一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル
一 諸費ノ儀ハ入諾ヲ以テ勘定ニ立ツル

中島拜吉

島田又吉

官崎角次郎

大沢平作

羽島友七

江口茂吉

江口保次郎

今井定平

田嶋洋平

江口和茂

山本兵次郎

以上十一名

右之通決ス

者合三匠ノ坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

右ノ坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

一 坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

一 坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

一 坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

一 坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

一 坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

一 坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

一 坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

一字遠郷山從前牧場ニ住ル牧畜ノ都合ニ因リ當分ノ中場ヲ修ス

右ノ坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

年所受人何ノ業

口

坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

坊法ノ月ノ等ハ石匠止ノ十日

一 石炭商社掛リ 竈元ノ内七名ヨリノ示渡ニ因リ
共有地ニ會畜セル石炭石ヲ他方ニ賣却ナサ
サルシテ 價金トシテ毎年五百五拾圓受取
名ニ凡ソ示渡後ノ増減ヲ其ノ共考
双方條約書有替法ニ依リテハ其ノ
之レハ確定ナサレルモノト見候シ事又此條
約書有替法ノ上金員ヲ受取協會ニ至ラシ
キハ三十四名ニ分賦シテ 洛ノ手之ニ取入ル
テトス

一 組合中再ヨリ之レ近ニ支金取シ指ル分ハ
多ク取リ取柄月々少ノ利付ニシテ有替金ノ
内ニテ引取リ取金ヲ有替ナスベシ

但申付有替諸品賣却ラシキハ其ノ分ハ
動宜之切ノ期限迄ニ六ヶ月ニ書渡シ分ハ
呂代也七ヶ月ヲ過ル分ハ七ヶ月目ヨリ
月々少ノ利付ニテ有替金ノ内ヲ引取リ
取金ヲ有替スベシ

一 有替金債却方ノ方法ハ其有替金ニ相当
スル抵当品ヲ銘々ヨリ 組合中ヨリ持出スベシ
其抵当品ハ田畑宅地或ハ建家ニ限ル証
書ハ法別々通テ長ノ割印眞印付ケル
ベシ亦証書工ハ受人或ハ証人サシツベシ
文書之後ハ金員ノ存意ニ任ス利金ハ月
或少定メ金主ハ組合中ニテ周旋シ受人
証人等ハ自分ノ分ニ借入ノ口入ヲモ依頼
セサル者ノ内ヨリ 飛門ヲ以テ五名ノ人員
トス右借入金ニ不足スル分ハ現金ヲ持

勘定之初ノ期限迄ハ六月ニ満ルノ分ハ
呂代也七ヶ月ヲ過ル分ハ七ヶ月ヨリ
月身少ノ利付ニテ負擔金ノ内ナリ
減金ヲ負擔スベシ

一頁擔金償却方ノ方法ハ其負擔金ニ相当
スル抵当品ヲ銘々ヨリ組合中ヨリ持出スベシ
其抵当品ハ田畑宅地或ハ建家ニ限ル証
書ハ法別々通テ長ノ割印眞印付タル
ベシ亦証書工ハ受人或ハ証人ヲ之ツベシ
文書之後ハ金員ノ存意ニ任ス利率ハ月
或年定メ金主ハ組合中ニテ周旋シ受人
証人等ハ自分ノ分ニ借入ノ口入ヲモ依頼
セサル者ノ内ヨリ飛門ヲ以テ五名ノ人員
トス右借入金ニ不足スル分ハ現金ヲ持
出スベシ其不足ノ現金モ調達者致シハ
差有地分既ニ有ルモノト見做シ其証書ヲ受人ノ内
取ル人員ノ内凡ソ分丈ケテ償却ナシ
タル者モ受人ノ依頼シテ尚他借ノ方法ヲ
求ムベシ則証書葉丸ノ通ニナスベシ斯
手致書房ハモノニ付取ル丈ケテ對他借シテ
負擔金ヲ償却スベシ

金借用證

印紙

一通用金

明治何年何月何日
明治何年何月何日
元利金返付スルノ約定

但利足之後ハ當何年何月何日ヨリ
金何円定月ニアニ當ル金員

此ノ金員取用正ニ受取積然ル上ハ期限之通

此人員ノ内凡ソ分丈ケテ後却ナリ
タル者トモトモ人ニ依頼シテ尚他借ノ方治メ
求ムベシ則証書臺左ノ通ニナスベシ斯
手殺右房ハモノニ付成ル丈ケ古對他借シテ
負擔金ヲ後却スベシ

金借用證

印紙
一通用金

明治何年何月何日
明治何年何月何日
元利金返付スルノ約定

但利足之後ハ當何年何月何日ヨリケ月
金何円定月ニアニ當ル金員

右之金員致借用正ニ受取然ル上ハ期限之通
元利無相違返流可致ナク返流方相違其元
又ハ借主逃亡死失跡相續人各之時ハ借主ニ
代リ受人并濟メ後日仍テ如件

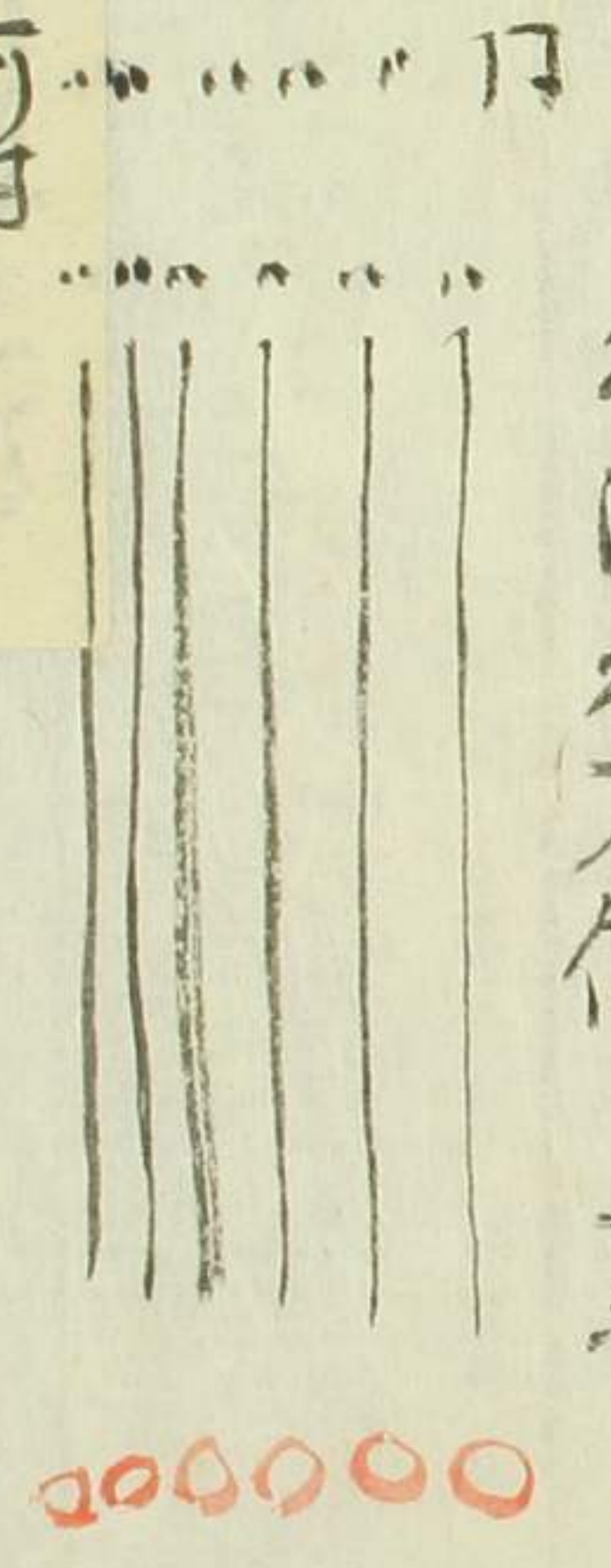
明治何年何月何日 借用金何ノナキ

右口同口郡口村平民
年所受人何ノ素

豐后國何郡何村

金員何ノナキ

右ノ通ニ決ス



Handwritten text in red ink, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in several vertical columns and appears to be a list or a series of entries.

一事件費前頭ノ再議事向

一假令金貳千七百貳拾圓

事件費入諾見込

ノ譯ニナル

Fragment of a document or envelope, showing some faint, illegible markings and a small portion of text.

但二十四名ニ負擔シ

志名ニ付金八拾四

内

△一貳千貳百九拾四 十五年一月一日ノ 借入

貸利率中ニ割界ニシテ 良月列 表分定

○五百四拾九回六拾銭

廿妙ニ

○五百五拾回元年列ニ會社掛リ

竈本ヨリ入名ノ分ナ十五年ノ 十八年迄四年間ハ年々 仕組ニ入前頭ノ利率ニ拂フ

但十四年ニ受取分ハ二十四名 分死ス志名ノ付拾回拾 七銭六厘宛

○二口差引四拾銭ノ余リトナル

△二口差引後

四百三拾四 不足

拾八回三拾三銭三厘

但十五年ノ年末ニ至リ借入 金ニ利率ヲ拂フハ新正月

會社ヨリ受取六回十二月十七日

△二日差引致

四百三拾四

不足

拾八四三拾三錢三厘

但十五年ノ年末ニ至リ借入

ノ金利朱ヲ拂フハ新土月

會社ヨリ受取六四十二月十六

日ノ間ニテ有故會社々

受取ルヤキ五百五拾四ナニケ

月別借替金主上拂フ可利

務或内ニルル如キ年二割ノ

利ヲ減シ在行金額ヲ伺ク

貸付ナニ表

合金四百四拾八錢三厘三厘

十四年新十二月廿五日限

銘ヨリ現貨ヲ持出

三十四人割

是ノ券拾三同拾八錢七厘宛

或五厘五厘

内訳

四百三拾四

是六十四年十二月、金リ現貨
入用分ニ拂リ

一拾八回ニ拾三銭ニ重

是六十五年一月ニ貸出シ同年
十二月ニ至リ之利金ニ拾五圓ニ
ナルヲ以テ五百五拾圓金社ノ
取ルベ金新十二月ニ借入
金主ト拂ヒ金社ヨリ六回十月ニ
受取リ利ヲ加シテ二月間金分
借入ノ金主ト返付ス

ノ也

外ニ

金十百四拾五圓

十四年新十二月廿五日限

銘ヨリ現貨ヲ持出

三十四人ノ割

各人前ニ拾三回ニ拾七銭七重入

拾銭八重入

女子百四拾五圓ノ年中、割ノ利足
付キニテ十五年新一月ニ貸出シ
十八年新十二月迄、隔四年間

銘ヨリ現貨ヲ持出

三十四人刻

去年前三拾三両七錢七匁入

借銀八匁多

廿千百四拾五両十一年中或割ノ利息

付キテ十五年新一月ニ貸出シ

十八年新十日迄満四年間

利十元ニ結ヒ年々増ニスルハ

十八年新十日ニ至リ

貳千三百七拾四両七錢七匁

付内

一貳千貳百九拾四

但前頭借入金ノ元々

返済ス

残 八拾四両七錢七匁

余金トナル

新書

前頭ノ多過且金至等尚フ

貸金ハ利息月利或約定ニシテ

年中或割四分ニ定ムベキナ

年中或割ノ竹書者ニシタルハ

貸出月ノトギレ遊金ノ利息工
且借入金ノ金主替ニ付テ月
ノ八重利高ノ諸費ノ償等ニ
向際金ヲ見込ニテ其明細ハ
満期ノ止期定帳ニ仕出ベシ

十四年新十二月廿五日限ノ持出金

二口合吉人希四拾六圓拾七錢四厘

内拾六圓拾七錢六厘 旧十二月三十一日分社ノ金
多三圓四角八分八厘 金ノ持出
但是迄事件費工ノ取替金

持出金ニ越ル者ハ其内ニテ
引落シ殘金ヲ返付スル持出
金ニ不足スル者武拾三圓以存
者ハ悉皆持出ニ負責ナ
償却シテ吉人希ノ權利ヲ
得ベシ武拾三圓以上不足スル
者ハ武拾三圓以テ持出シ

尚フ不足スル分ハ其人適宜ニ
任セシ組ノ社則ニ随テガワハ
貸渡スルモアルベシ

者ハ悉皆持出ニ負責シ
債却シテモ人等ノ權利ヲ
得ベシモ然レ以上不足スル
者ハ武拾ニ同文ケテ持出シ

尚フ不足スル分ハ其人ノ適宜ニ
任セザレバ社則ニ随テガツバ
貸渡スルモアルベシ

謝
持出金ニ不足スル者武拾
三回以内トアル処高フ武拾高
以上不足スル者ハ亦同文ケテ
持出トアル処ハ事件ノ費

入諾確定シタル上十四年
新立月ニ現貸金ツ入用
ノ分ヲ計算シ其金員ニ
應ズル者ナレバ増減スル

ノアルモノトス

一社債社中列支ノ人各ハ手一
會社ヨリ年々受取ルベキ
金員破約ト成ツタル連モ
借入金ノ利率ヲ自年ニテ

金主口償却ナスハ勿論ナシ
ドモ仕組方法ノ後ナリテ
身晴シ社外ト成ワタル者或
ハ社ヨリ借用スル組内ノ者ハ
五百五拾四ナ四年分合セ忒千
忒百四ナ三拾四人ニ割テ老人等
六拾五四ノ証書詰ニナシキ
會社ヨリノ金更更返済之減ニ
シテ証書ヲ入レ替若シ會社ノ
條約破約ト成ワタル節ハ一ヶ
年、老人等金拾百拾七歳八重
宛中持出シ之減ニシ満期ニ至
皆洩スベシ

但シ証書ニ六極高ナ流金在
若シ極高不取合者ハ可然
系極受人ナシキリベシ也
無利等ニ其ノ者、証書、

無利ノ法ナケレハ利率ノ
分令金員等ヲ顯ワサズ
只利トシテ記載モカス
モノトス

但此証書ニ極高ノ汚毒
若シ極高不取合者ハ可然
無利者ニ其ノ者証書

無利ノ法ナケレバ利者ノ
分令金員等ヲ顯ワサズ
只利トシテ記載モカス
モノトス

一四回以内ヲ持ビシテ暗ナスル
者ハ別途拾圓ノ現貨持出
サセ社ニ加入サセ金主トナス

一四回以内ノ過ナ取ル者ハ別途
拾六圓ヲ持出サセテ社ニ
加入サセ金主トナス

一四回以上五拾圓以内ノ過ヲ
取ル者ハ過金文ヲ持出サセ
社ニ加入サセテ金主トナス

但別途ノ金ヲ持出シ金主ト
ナルハ其人ノ適宜ナルベシ

一五拾四以上ノ過金ヲ取ル者ハ
随分大略ニ現貨減ニナルヲ
專要トス

會社ヨリ年々取返ルベキ
金ヲ負擔金ニ償却スル
集計書

一八拾四 負擔金

利三圓貳拾錢 四ノ寫據ニテ月分

之利金八拾三圓貳拾錢

由拾六圓拾七錢六厘
十四年四月三日
合計八分八厘

了六拾七圓。或々四厘

利拾六圓。八錢六厘

之利金八拾三圓拾七錢

由拾六圓拾七錢六厘
十五年四月三日
合計八分八厘

了六拾六圓九拾三錢四厘

利拾六圓。六錢四厘

十六年四月三日
合計八分八厘

之利金八拾三圓九拾九錢八厘

六拾七圓。多五四厘

利拾六圓。八五六厘

之利合八拾三圓拾壹厘

四拾六圓拾七五六厘

十九年四月二日
會社分入分川

六拾六圓九拾三或四厘

利拾六圓。六或四厘

之利合八拾三圓九拾九或八厘

四拾六圓拾七或六厘

十六年四月二日
會社分入分川

六拾六圓八拾或五厘

利拾六圓。三或七厘

之利合八拾三圓九拾五或九厘

四拾六圓拾七或六厘

十七年四月二日
會社分入分川

六拾六圓六拾八或三厘

利拾六圓。四厘

之利合八拾三圓六拾八或七厘

四拾六圓拾七或六厘

十八年四月二日
會社分入分川

六拾六圓五拾七或五厘

廿金十八年四月二日至二十金

原責トナ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

仕組隨テ会社ヨリ受取ベキ
金ヲ仕組ニル不足金ヲ借之
負擔金一時償却スル等公

一金三拾四。六拾八錢五厘

但十四年三月廿五日限
持出スベキ分

一四六拾四錢七厘五厘

但持出金ハ三月廿五日会社ヨリ
受取金ハ四月十三日同月ノ
間際二月分ノ利

合金三拾七圓三拾三錢五厘

受取額ヲ他借シテ十五年
一月ヨリ利ヲ元ニ結ビ十八年
十二月ニ至テ

一六拾四圓九拾七錢六厘

但年中ニ利息ノ元七

一七拾四圓。八錢三厘

但年中ニ利息ノ元七

事件費償却法仕組

後令ハ

仕組隨テ会社ヨリ受取ベキ
金ヲ仕組ニ不足金ヲ借立
負擔金一時償却スル等出

一金三拾四。六拾錢壹重

但十四年三月廿五日限
持出スベキ分

明治十四年三月廿五日限

高田拾七錢五重

但持出金ハ仍十二月会社ヨリ
受取金ハ四月三月分月ノ
間際二月分利

合金三拾壹圓三拾三錢壹重

又金額ヲ他借シテ十五年

一月ヨリ利ヲ元ニ結ビ十年

十二月ニ至テ

一六拾四圓九拾七錢六重

但年中二割利ノ取セ

一七拾四圓。八錢三重

但年中二割利ノ取セ

事件費償却法仕組

後令ハ

十二月に至テ

一六拾四圓九拾七錢六厘

但年中二割利ノ為也

一七拾四圓八錢三厘

但年中二割利ノ為也

事件費償却法仕組

仮令バ

一千円

負擔金

一千円

十五年一月ニ
現貨借入

ノ
貳千円

借取過

一千円

十五年一月ニ現貨借入
ノ分十一月ニ他方ニ貸付ル

利是月利二分ニテ貸付ル時ハ

年間ニ四分ノ間際益有ルナリ

トモ貸出月ノトキニ庭金利

且六口入人ノ手殺形等ニ見区

ナク

年中二割ノ利是付ニテ十五年

一月ヨリ十八年十二月迄満四ヶ

年間利ニ利ヲ加エル共十八年

十二月ニ至テ

貳千〇七拾二圓六拾錢ニナル

内

十八年十二月

一、貳千四 前借取之拂

残

七拾三同六拾錢 十八年 十二月有

廿元年十五年一月一元

三拾五同四拾九錢四厘

内

一拾三同 十五年三月借入

利三同拾貳錢 十六年分

年二刻四分

一拾三同 十六年十二月借入

一、貳拾九同拾貳錢

利六同九拾八錢九厘 十七年分

一拾三同 十七年十二月借入

一、四拾九同拾錢。九厘

利拾壹同七拾八錢六厘

十八年分

一拾貳同七拾錢。五厘

利六両九拾八銭九厘十七年分

一拾三四 十七年正月借入

ノ四拾九両拾銭。九厘

利拾壹両七拾八銭六厘

十八年分

一拾貳両七拾銭。五厘

十八年三月借入

ノ七拾三四六拾銭

但十八年十二月ニ至テ

前ノ有金ヲ以て返済ス

右之通年々借入ヲ以テ諸費ヲ

償却シ残金ハ掛リ委任ノ

給彩。此ノ

一四百八拾両宛

但前ノ借取其千両ノ

利子月利二分

其分元ヨリ年々拂出ス

十九年ヨリ十八年迄

四ヶ年合千九百貳拾両

右執行其八年々利ヲ拂エ
心得レハ元捨リトナリエテ拂
フト心得ルハ無利四年賦
ノ譯ニナル

